

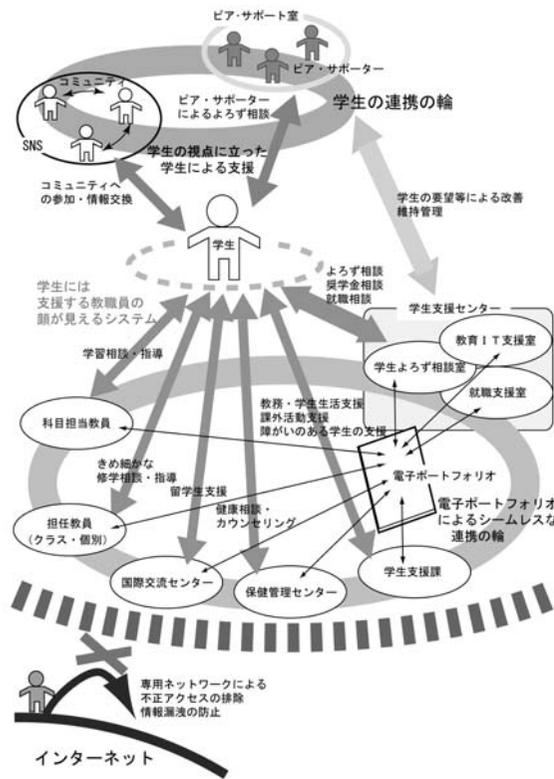
学生支援の現場から

北見工業大学
学生の元気が大学の力

梅村 直基
北見工業大学 学生支援課長

本学では、多様な学生が入学して行く中で、学生が快適な学生生活を送り、社会での活躍にそれぞれ大きな「夢」を持って卒業していくための学生支援を目指している。

そのためには、学生個々のニーズを正確に把握して、学生支援の過程が具体的に視覚化、体感でき、かつ支援を受けた学生がはっきりとした満足感や充実感あるいは達成感を持つことが重要であると考え、これを実現する一方策として、これまでの学年担任制に加えて、教員一人が五人程度の学生を受け持つ個別担任制を取り入れ、個々の学生の修学状況を把握しながら、学生の修学・生活相談に責任を持って対応する体制を複数学科で確立さ



夢を育むe-学生支援

せた。
その結果、「学生の自己学習力が著しく向上した」、「異常行動（急に欠席が増えたなど）を素早く抽出でき、メンタルヘルスケアの重要な基礎データを提供できた」など、学生の修学指導やメンタルヘルスに成果を上げてきた。
また、本学では年四回程度父母懇談会を各地で開催し、父母との個別面談を通じて学生個々の修学状況・学業成績



学生よろず相談室

の確認、進路相談や生活相談等に対応してきており、個別担任制度に関しては父母からも高い評価を得ている。
これまでの実績を踏まえ、このような取り組みを平成一九年度の学生支援GPに「夢を育むe-学生支援」として申請し採択された。
このプログラムは、



ピア・サポーターによる修学相談

この取り組みを推進するため、「学生よろず相談室」、「就職支援室」及び「教育IT支援室」で構成する「学生支援センター」を設置し支援体制を整備した。
特に、ピア・サポーターの活動は、学生間の認知度としてはまだ低い、履修登録期間中の修学相談の際に大活躍するな

全学に個別担任制を導入し、個々の学生の修学・生活状況等多元的な情報を集約した電子ポートフォリオ（電子カルテ）を教職員で共有し、早期に適切な助言や指導を行うとともに、ピア・サポート（ピア仲間）やSNS（電子的な学生交流の場）を立ち上げ、学生同士の相談や交流・情報交換を活発化させ、学生の自主的活動を高めることで、学生による良い学生生活環境づくりを支援するものである。

ど、すでに成果を上げている。
本プログラムは運用を開始したばかりであるが、この取り組みによって一人でも多くの学生が学生生活を満喫し、夢を持って卒業してくれることを願うばかりである。